吾妻名産
角田旧樹 さくら木彫

愛に刻める様の古木はいかし　賢き清君の御とあるを見きさ
ぐらし歸路より此の妻へ持たる角田の堤に植させ玉ふ所にしたるを
ほれぐり世に栄え来る妻毎に花咲くいつもめぐる給ふなりしも
ちやこて玉と頻近に経る程の清もまる年の古りぬるまで老ひ
朽ぬをなく社甚だしきにかの初きより物彫るを業にしを以て書ふ
寓ゐ朝夕ちかの見侍りかゝみにあるかゝ様木のそう給ふ立ちて朽
果るを見捨ぬかんも申さなりしかゝ思ふ様のかゝ事なるもいくひ
ひとりて此古木を賜り物彫るものこゝ思ひしを蒙りそれよりかのう抽き業
まで朝夕物彫しくあるは寓に恵つるを多し希ふ是古雅好む人々の翫ひ
世に所ふ此世に二愛咲の花の名字の法目に好まる使せめて詠の遺無と
なるを知て物にはなりぬ賦の主人其意を
吾妻角田の庵侍に寓る　大林堂　光珉徳

施し灸点

一たん　まうゐん　せんき　すたこ　アん病　せんしやく
一せうかつ　かすミ目　拾弐三才より上の下痢あしき　ぢ
かつけ
右何ぞも其人の生れ年の星を見て其病症をさふし
かろきは灸治一廻りも用ひゆへは病根をたち全快に就て

毎月一六の日　駒込四軒寺町　椎の木寺